

2025年1月6日（月）

老球の細道846号

## 71歳を迎えて

会津バスケットボール協会 室井 富仁

いまだに信じられない。私が70歳台に突入し、今日から2年目の71歳を迎えるとは。新年を迎えて間もない朝、息子、孫から「誕生日おめでとう」と言われて、忘れていた現実気づかされた。今はお正月はおめでたいが、誕生日はおめでたいとは思わない。

誰が言ったか忘れたが「人間は生まれながらにして死刑囚である」という言葉を知ってから、人間には「寿命」というものがあり、死は誰もが避けることのできない宿命であることを意識させられた。年をとることはあの世からのお迎えが近づくということである。

その言葉を知ってから若い頃は「メメント・モリ」、中世のキリスト教でよく使われたラテン語の格言で「死を忘るなかれ」、つまり「自分がいつか必ず死ぬことを忘れないで今日の日を大切にせよ」と自戒してきた。

我が家のトイレのカレンダーには私が作った愚警句「生は偶然、死は必然、幸福は自然、不幸は突然。人生苦楽、四季折々、然然心配なし。陽はまた昇り、明日はまたやってくる。老球の細道」と孫が清書した付箋が貼られている。健康診断で「要精検」を告知されたり、いざという時に自分を見失わないようコロナの頃から貼り、毎朝のトイレスタート時に眼にすることをルーティン化している。

今は亡き哲学者の池田晶子さんは「生命は尊いだと馬鹿を言っちゃいけません。生命は尊くも醜くもありません。ただの自然現象です」と言い切っていたが、死は恐ろしい。老いもたらす肉体の弱化といつかは必ずやってくる死と日々どう向き合うかが残された人生の大きな課題となるだろう。「あの世」は本当にあるのだろうか。行ってきた人が未だに誰もいないので信じることもできない。

若い頃は「死を忘れるな」で生きて来たが、退職してからあつという間に過ぎたこの10年、そしてこれからは「死を忘れろ」というスタンスで生きて行きたい。死を恐れず残り少ない人生を有意義に生き切るためにライブハウス「ロット」創始者平野悠氏が唱える「死を無視する強い意志」（『文藝春秋2025年論点100』）を持ちたい。それには日々目標を携えながら充実した生を送ること。充実した生とは、バスケットを柱に、脳を維持する読書と新聞、心を豊かにする映画、健康を維持するトレーニング&お酒、そして周囲への感謝。

2025年も71歳の年もまた4つのスローガンを立てた。①死を忘れよ、永遠の生を②いざというときに自分を見失うな③小さいことにこだわるな。ワカチコ、ワカチコ(若さ、力、根性)④悔悪隠善を良し(道元の言葉。自分自身の誤謬を反省し、善行はこっそりとし、人によく思われることは他者にゆずって、逆に人から悪く思われるおそれのあることは自分で引き受ける心意気を持つという意味)

今年はヘビ年である。ヘビは大嫌いであるが。干支にちなんで、今年もバスケットと共に若く、ヘビーに生きて、クネクネと少しずつ前進したいと思う。今年もよろしく。